平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」のキーワードのもと、社会で通用する規範意識を醸成する。さらにこれからの大きな変化が起きるであろう社会で多様な対応ができるように、もう一つのキーワード「脳力開花」を掲げ、基礎学力を確立し生きる力を高めようとする姿勢を育む。

- 1 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者が安心とを感じる学校になる。
- 2 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように思考力、判断力、表現力を育成する。
- 3 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。
- 4 挨拶励行・時間を大切に作る・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
- 5 個々の教育的ニーズに応じた支援を実現していき、すべての生徒が他者理解、思いやり、そして自己を大切に作る気持ちを持ち、自らの夢や志を持って新しい社会を切り拓く態度を育成する。

2 中期的目標

- 1 社会で通用する基礎学力の獲得をめざす
 - (1) 積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。
 - (2) 授業形態の工夫、ICT機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的・対話的な深い学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて改善を進める。授業のキーワード「脳力開花 解る 創る 伝える」を推進する。
 - (3) 大学進学希望者の増加をふまえ、その達成への過程において、早い段階で意識づけできるようガイダンスを充実させるとともに、多様な進路希望を実現できる取組みを確立する。(各ガイダンス行事における満足度肯定を50%以上)
 - (4) 生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。
- 2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成をめざす。
 - (1) 平素の生活指導（服装指導・遅刻指導・美化活動）により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。
 - (2) 他者理解と思いやりを備え、自分を大切に作る気持ちを育み、道徳教育を推進する。そして自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。
 - (3) 職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。
 - (4) 生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送れるよう支援する。
 - (5) 部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらす、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。
 - (6) 保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。
- 3 地域連携と機能的な校内体制の整備、さらに「中学生が行きたい学校」となる。
 - (1) 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。
 - (2) 出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。
 - (3) 生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。
 - (4) ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、「中学生が行きたい学校」となる。
 - (5) 教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ○「授業はわかりやすくなる」肯定回答はH29年度からの3年間で70.0→66.9→66.8と少しずつはあるが低下している。教員は授業方法について常に改善を進めているが、定期テスト等の点数につながっていないことが、この結果になっているのではないかと分析している。評価方法については「観点別評価」の手法を更に進めながら、達成感・満足感を持つよう工夫していく時期にきている。 ○1, 2年生で年2回実施している基礎力診断テストにおいては両学年ともに春よりも成績が伸びており、一定の成果がみられる。次年度は学力向上のため「脳力開花プロジェクト」を更に推し進め、ICT環境も整備して更に学習環境を充実させる必要がある。</p> <p>【生徒指導等】 ○「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」肯定回答はH29年度から50.0→58.0→53.6とほぼ横ばい状態である。スクールカウンセラーの更なる活用や外部機関との連携もさらに進めていく予定である。 ○「進路指導を適切に行っている」肯定回答 H29年度から78.6→81.4→82.9と更に上昇している。特に3年生については89.6%と、講習や補習、キャリアガイダンス室の有効活用等、進めてきたことが生徒の満足感につながっていると考える。今後は大学進学方法の変化に対応していくことが課題である。 ○「生命を大切に作る心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」肯定H29年度から71.8→73.1→74.5と伸びている。人権学習等について、ホームルームや総合的な学習の時間で取り組んでいるが肯定につながっていると考える。 ○「生活指導は先生方が協力して適切に行っている」肯定回答が75.1%と非常に高い。「校則は厳しい」という声も多いが、その必要性を明確に伝え、丁寧な指導を行っていることを生徒が理解していると考ええる。</p> <p>【学校運営】 ○「先生方は学校をよくしようと頑張ってくれている」ではH29年度から63.0→73.1→65.4と昨年度と比べ低下した。昨年度と比べ教員定数が2減となり、生徒一人ひとりにしっかりと向き合い、対応するための時間が確保できていないことが原因と考えられる。更に校務の精選と効率化を進めていく必要がある。</p>	<p>第1回（7/3開催） 平成30年度 学校評価、平成31年度経営計画について…校長より説明し、概ね了承いただく。 ○スマホについて ・必ずメリットとデメリットがあるのでバランスをとるようにコントロールすることが必要である。 ・新しい世代のコミュニケーションツールであるので、時代に応じて対応する必要がある。 ○防災について ・会社では、安否確認については、防災メールが来るのでそれに返信することになっている。参考にしてほしい。 ○学習 ・保護者はいけるのであれば大学や専門学校にはいけるのであれば大学や専門学校に行行かせたい。 →教育産業の実産業の実力テストを活用し振り返る。テストを活用し振り返ることが大切。</p> <p>第2回（2/4開催） 「学校に行くのが楽しい」が7割を超えているのは、高校としては貴重な結果である。進路指導に関しては、 ② 大学進学率を上げるには、学力が高くて進学意欲のある生徒を積極的に声掛けをして引っ張っていくのも1つの手段である。入学者選抜の学検と調査書の比率について、中学では真面目にコツコツする生徒が行く学校だと考えているので有難い。 守口市では、2021年度から小5、中1で一人一台のタブレットが配置される予定である。本校でも早急に整備する必要がある。誰もがスマホを持っている時代であるが、本校生のようにきちんとしているのなら心配しなくても大丈夫である。</p> <p>第3回（3/27） ・進路実績は着実に伸びている。一般入試で3月まで勉強して合格する生徒も出てきている。しっかりとこの雰囲気続けてほしい。キャリアガイダンス室を作った効果は大きい。 ・就職指導もしっかりできている。キャリアコーディネーターの存在は大きい。素直な生徒が多いので、模擬面接をしっかりと練習すれば伸びる。今年度の内定100%は素晴らしい結果である。 ・面接が大切のように、人と話ができる、自分の考えを述べるができる生徒を育てていく必要がある。コミュニケーション能力は大切である。 ・入学者選抜の定員割れは原因を分析する必要がある。中学校側の意見をしっかりと聞いて、来年度に備える必要がある。 ・コロナ対策で大変であると思う。新学期がどうなるかわからないが、しっかりと形での学校運営をしていただきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会で通用する基礎学力の確立	<p>(1)積極的な学びの姿勢を育みながら、基礎学力の定着を図る。まずは主要3教科での強化を図る。</p> <p>(2)授業形態の工夫、ICT機器の活用、評価の工夫等を試み、生徒の実態に応じた主体的・対話的で深い学びを促し、よりわかりやすい授業構築に向けて研究を進める。授業のキーワード「脳力開花 解る 創る 伝える」を推進する。</p> <p>(3)大学進学希望者の増加をふまえ、その達成への過程において、早い段階で意識づけできるようにガイダンスを充実させるなど、進学希望が実現できる学力保障、進路指導の取組みを強化する。</p> <p>(4)生徒の進路希望の変化、高大接続システムの変化に対応したカリキュラム改訂やシラバスの更新を進める。</p>	<p>(1)1年生での対応 ア・1年数学：習熟度別2クラス3展開 1年英語(英会話)：1クラス2展開の少人数 ・1年国語(国語総合)：1クラス2展開の少人数 イ・教育産業の実力テストを実施 1, 2年生は年2回実施 ウ・守口東高校版 e-ポートフォリオを確立し基礎学力の充実を図る。</p> <p>(2) ア・授業研究チームによる研究。実践だけでなく洗練。 ・授業研究チームからの啓発を軸に新学習指導要領への移行 他県への研修参加、WEB サイトでの研修 イ・退学者数の減少</p> <p>(3) ア・元キャリア Co を校長マネジメントで招聘し、専門的なアドバイスを受ける。 イ・大学からの出前授業を充実 ウ・英語教育での外部検定の対応</p> <p>(4) ア・カリキュラムの変更</p>	<p>(1) ア・少人数アンケート結果： ・数 85% 英 90% 国 85% イ・教育産業の実力テスト結果向上 年間2回(1, 2年生) ABゾーン春→秋 10人増加 Dゾーンは人数を減少させる ウ・守口東高校版 e-ポートフォリオを確立すること</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断 (H30 わかりやすい 肯定 66%→70%) ・「授業研究チーム」による研究 授業を年間2回、 イ・退学者 2名以下</p> <p>(3) ア・年間 25 回 イ・大学出前授業講座数 6 講座 ウ・外部検定への対応</p> <p>(4) ア・カリキュラムの(1)変更</p>	<p>(1) ア、少人数アンケート結果： 数学 81.5% 英語 90.0% 国語 87.5% (○) イ、教育産業の実力テスト結果向上 年間2回(1, 2年生)実施した 1年 国数英結果 2ポイント上昇 (○) ABゾーン 11→38 Dゾーン 11→13 (△) 2年 国数英結果 上昇なし (△) ABゾーン 7→21 Dゾーン 40→43 (△) ウ、e-ポートフォリオの入力画面が完成した (○)</p> <p>(2) ア、学校教育自己診断 ・肯定 65.8%とやや低下した。ICTを更に取り入れ視覚的な効果を上げていく必要がある。(△) ・授業研究チームによる見学週間を1回実施、 初任者の研究授業を2回実施した。(○) イ、退学者数は目標をやや下回った。(○)</p> <p>(2) ア、肯定 65.8%とやや低下した。ICTを更に取り入れ視覚的な効果を上げていく必要がある。(△) ・「授業研究チームによる見学週間実施1回 (○) ・授業公開2回実施 (○) ・初任者の研究授業2回 (○)</p> <p>(3) ア、25回招聘、就職内定率100%を達成した。(◎) イ、6講座開講、新たに摂南大学来校いただく。(○) ウ、現2年生がID取得予定であったが、文科省の発表で白紙となった。(△)</p> <p>(4) ア、新カリキュラム委員会を発足させ、今後更にスピードアップする予定である。(△)</p>
2 多様で変化が激しい社会で生き抜くことができる生徒の育成	<p>(1)平素の生活指導(服装指導・遅刻指導・美化活動)により、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。</p> <p>(2)他者理解と思いやりを備え、自分を大切にできる気持ちを育み、道徳教育を推進する。そして自らの夢や志を持って社会を切り拓く態度を育成する。</p> <p>(3)職業観・勤労観の形成を重視したキャリア教育に取り組み、特にコミュニケーション能力の向上をめざす。</p> <p>(4)生徒会行事や学年行事を活性化し、学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>(5)部活動の支援を行い、自発的な行動と達成感をもたらす、自信を深めさせる。また学校の活性化を促進する。</p> <p>(6)保護者に密な連絡を取り、情報を共有できる環境と信頼関係を構築する。</p>	<p>(1) ア・遅刻数を減らす。 イ・皆勤者数の増加</p> <p>(2) ア・守口東高校アンケートを実施し、悩み等を早期に聞き取り、寄り添い、前向きな姿勢に導く。 イ・道徳教育の推進</p> <p>(3) ア・1年生からの進路プログラムの充実</p> <p>(4) ア・お互いを認めて励ましあったり支えあえるように機会を提供する。</p> <p>(5) ア・部活動参加率の増加</p> <p>(6) ア・保護者への連絡を密にし、寄り添いの対応。</p>	<p>(1) ア・生徒遅刻回数の減少 大小遅刻 4500 以下に イ・年間皆勤者数の増加 3 学年 150 以上</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断 「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」の増加 58%以上 イ・「生命を大切にできる心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」の増加 75%以上</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断 進路について肯定 81%以上</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断 76%以上</p> <p>(5) ア・部活動加入率を伸ばす。40%以上</p> <p>(6) ア・メールマガジンの送信回数 80 以上 イ・学校教育自己診断 「ホームページや携帯メールマガジンで学校の様子がよくわかる」 67%以上</p>	<p>(1) ア、年間で 5608 回と、目標は達成できなかった。(△) イ、121 人と目標値は達成できなかった。(△)</p> <p>(2) ア、53.6%と、現状維持と考える。SC・SSW の更なる活用を進め、相談体制を充実させたい。(△)</p> <p>イ、74.5%と昨年度(73.1)よりも上昇したが目標値は達成できなかった。(△)</p> <p>(3) ア、82.9%と更に上昇した。特に就職については、内定率 100%を達成した。大学進学者の割合を高めることが課題である。(○)</p> <p>(4) ア、70.8%とやや下降した。行事日程が立て込む中で、十分な準備時間を確保できていないことが原因と考えられる。(△)</p> <p>(5) ア、40%は達成したが、更にそれぞれの部の活動実績を積み上げていくことが課題である。(○)</p> <p>(6) ア、メールマガジンについては、次年度は緊急連絡にも合わせて使う予定で、頻度を高めることを目標とせず内容を精選する必要があることから 50 回にとどまった。(△) イ、肯定回答が 68.2%と、満足していただいていると考えている。(○)</p>
3 地域連携と校内体制の整備、さらに「行きたい学校」へ	<p>(1)異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携と交流機会を設定し、「協働」の意識を醸成する。</p> <p>(2)出身中学、関係機関との連携を緊密に行い、より深くそして広がりを持つ生徒指導を実践する。</p> <p>(3)生徒や保護者への寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導体制を確立する。</p> <p>(4)ホームページ更新やメールマガジン発信により、保護者や地域からの理解、信頼、協力を獲得できる学校づくりを行い、中学生が行きたい学校となる</p> <p>(5)教員の人材育成とともに、適正な勤務体制を確立し、生徒に全力で向かい合える職場となる。</p>	<p>(1) ア・地元中学校との連携 ・支援学校との連携 ・大学からの出前授業等 ・保育園との連携</p> <p>(2) ア・出身中学との緊密な連携による生徒指導の充実 イ・入学前に中学校や関係機関との連携を図り、寄り添いの指導を進める。</p> <p>(3) ア・全教員による相談機能を強化するために研修を実施。 イ・専門的なアドバイスを受けながら、関係機関と連携しながら相談を受ける。</p> <p>(4) ア・HPのタイムリーな更新 イ・校内モニタを活用した生徒活動等の情報発信</p> <p>(5)時間外勤務時間を短縮 ア・時間外勤務の減少</p>	<p>(1) ア・地元中学校への出前授業 3校 ・支援学校との連携 維持 ・大学との連携 6 講座以上</p> <p>(2) ア・1年生による母校訪問 全校 イ・入学前中学校訪問数 全校</p> <p>(3) ア・職員研修を1回実施。 イ・SSW との年間3回以上のケース会議</p> <p>(4) ア・ホームページの新着情報更新回数の増加 20 回以上 イ・校内モニタの更新 50 以上</p> <p>(5) ア・時間外勤務時間一人平均短縮 325h 以下にする。</p>	<p>(1) ア、出前授業は2校にとどまったが、学校説明について6校から依頼があり、大阪市内4区の説明会にも参加した。(◎) ・交流会にボランティア部が参加、作品展に本校生徒作品を展示していただく。(○) ・1の(3)イ.において評価済み</p> <p>(2) ア、各中学校代表者に、近況報告とオープンスクールのパンフレットを持たせた。(○) イ、全校に対し、教員が分担して訪問した。(○)</p> <p>(3) ア、社会福祉士を招いて、また元支援学校教諭を招いて合計2回実施した。(◎) イ、3回実施した。更に効果的な活用を考えていく。(○)</p> <p>(4) ア、HPについてはカウンターを導入し、閲覧数が80回/日→100回/日と大幅に向上した。1月8日の始業式の日には300を超える閲覧数があった。新着情報の更新も20回を達成した。(◎) イ、部活動の試合等の素材を集めるのに難航し、20回程度にとどまった。(△)</p> <p>(5) ア、3月末で350hと目標は達成できなかった。(△)</p>